

ことり新聞

January
2022.1.11
Vol.105



北之園看護部長

年末・年始勤務の方にお礼申し上げます。休みの方は規制が続く中、気分転換も十分でなかったと思います。昨年末には「コロナ禍のため新年の挨拶をご遠慮します」のはがきが複数届きました。現在は、オミクロン株による市中感染が拡大しています。

オミクロン株感染後3日～6日が最もウイルス量が多く、10日以降にウイルス量は減少し感染力が低下。予防策としては、「マスクなしでの会話は絶対禁止」

「換気は最も重要」等の情報を府北西支部感染研修で得ました。これまでも、実施してきていることですが、更に注意が必要な時期です。クラスターが発生すると、更なるストレスです。皆で、予防策を徹底しこれ以上のストレスがかからないようにしましょう。



クリスマス

副院長 内科医師

12月17日の午後、たまたま通りかかった病棟のデイルームでクリスマス・パーティーが開かれていました。クリスマス・ソングが流れ、リハビリ科が中心となり、病棟のスタッフも参加する中、集まった患者さんは、ある人はサンタの帽子をかぶり、またある人はサンタの上着を着て、手には鈴やトライアングルが握られ、あまりの楽しそうな雰囲気、わたくしも思わず参加してしまいました。患者さんは、皆さん普段は見られないような表情をされていて、笑顔があふれていました。私もきっと笑顔になっていたと思います。



自身を振り返って、昨年からの日々を思い返すと、病院の外の生活は勿論あるけれど、それまでとは大きく異なって、家族や友人にも中々会えない寂しさを感じていました。でも、この期間も入院されている患者さんは、全く外にも出られず、家族の面会もままならず、比べものにならないくらい、寂しい日々を過ごされているということに改めて気が付きました。制限の中で、普段の日々で患者さんが触れ合いを持てるのは、病院の職員だけであり、もちろん、職員としては、患者さんと職務として接している部分が基本ではあるのですが、それだけではなく、人と人の触れ合いという意味で、特に病棟で長い時間を共にしている、看護師さん、看護助手さん、リハビリ科の皆さんの患者さんに果たしている役割の大きさを改めて感じる事となりました。



1 月 研 修

- 14日 法人外国人教育「リスクマネジメント」
- 19・20日 新人・プリセプター合同研修
「看護現場学」
- 27日 新人研修「ケーススタディー発表」
- 29日 法人卒後2年「ケーススタディー発表」

1 月 行 事

- 13・26・27 保健所立ち入り検査
- 11～21日 大阪医療看護専門学校
実習
- 12～28日 大阪青山大学実習
- 13～24日 大阪大学実習



摂食・嚥下障害看護 認定看護師

「摂食・嚥下障害」とは食物を認知して口に運び、咀嚼して飲み込むまでの過程で何らかの障害を生じている状態をいいます。食べることは生きることに直結するのはもちろんですが、生きていく上での楽しみになる重要なものです。摂食嚥下障害がある人の「食べたい」という思いをどうすれば叶えられるか、今までの生活も踏まえた上で検討し、他職種と協働して支援していきたいと考えています。

病棟で「最近食事量が減っている」「ムセが増えている気がする」「食事介助法はこれでいいのか」「本当に食べられないのか」「食べるようになるにはどんなケアが必要なのか」など食べることで悩むことはありませんか？ そんなときは是非ご相談ください！



マザーテレサの言葉を紹介します。

思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。
言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。
行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。
習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。
性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。



11月 新規褥瘡発生 8 件

(12月褥瘡予防対策委員会)